

あとがき

本書は市民生活の周囲に存在する音、それも公共的な場所での音環境を中心に考察している。独自にアンケート調査を実施したり、関係文献を読み進めたり、現地取材を実施しているうちに、“音”という見えない存在に神経をはらう価値観のズレが個人個人の意識の底に横たわる問題の根深さを感じてきた。文化騒音はマイナーでサウンドスケープはメジャーという感覚が一般的ではあるが、残したい日本の音風景 100 選を選定したからこそ 100 選の音が市民に聞えてきたのである。本書で取り上げた様な騒音を顕在化することで意識のテーブルに乗せることができるかも知れないと考えてみたりもする。

ここで調査研究した内容は問題の一端ではあるが、本書が市民生活と音環境の向上に幾ばくかでも貢献できれば幸せである。

調査研究にご協力頂きました関係各位に厚くお礼を申し上げます。当財団の研究助成の審査委員各位からは本調査のポイントに関して多大なヒントを頂きました。特に審査委員長の中島隆之先生（当財団評議員・電子情報通信学会フェロー）からは第3章のアンケート調査で適切なお指導をいただきました。ここに厚くお礼を申し上げます。

内容について検討・考察が不十分な点多々あると思われまふ。至らぬ点のご教示・ご指導をよろしくお願ひ申し上げます。

— 編集・文責 財団法人サウンド技術振興財団 江沢定明 —